

87. 当院における急性リンパ性白血病の予後

研究の概要

急性リンパ性白血病（ALL）の予後はフィアデルフィア染色体(Ph染色体)の有無で予後が異なるとされてきました。近年、Ph染色体に作用するチロシンキナーゼ阻害剤(TKI)の登場により、Ph陽性ALLの寛解率は改善し、現在の標準療法となりました。しかし、TKI時代の実臨床においてPh染色体はALLの予後に影響するのか否かのデータは乏しいのが現状です。当院でのALL症例の予後を検討し、治療成績の比較と予後因子を検討します。

研究の目的と方法

2009年1月から2018年12月までの間に、当院でALLの治療を受けられた患者99例(予定)に対してカルテデータを用いて予後を後方視的に解析します。

本研究の参加について

本研究により患者様に新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください

調査する内容

本研究は、新たに詩伴・情報を取得することではなく、既存のカルテデータ(問診言識、身体所見、検査データ)を用いて実施する研究です。研究対象者(患者様)の個人情報(氏名、住所、電話番号)は記載せず、個人情報は特定されません。

調査期間

研資期間:当院倫理委員会承認日～ 2020年10月31日(調査対象期間:2009年1月～ 2018年12月)

研究成果の発表

研究成果については、学会、論文などでの発表を予定しています。

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター血液内科 平野太一

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター血液内科 平野太一

TEL: 096-353-6501